

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175000926		
法人名	株式会社ナショナルスタッフセンター		
事業所名	グループホーム松風		
所在地	北見市とん田東町450番地7		
自己評価作成日	平成28年7月17日	評価結果市町村受理日	平成28年9月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL saku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigvosvoCd=0175000926-00&PrefCd

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	平成28年8月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念を基本にスタッフは日々のケアが、理念に沿っているか常に確認しながら、共に研鑽・スキルアップを意識した姿勢で入居者様本位のサービスを目指し支援に取り組んでいます。入居者様が過ごされる共有スペースには、入居者様が取り組まれた作品や、季節に合った装飾、行事や誕生会等の写真等掲示するなどし、穏やかに生活して頂けるよう雰囲気作りに努めています。入居者様・ご家族様に、安心・信頼して頂けるように、スタッフ一同心掛け、支援の提供に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム松風は2階建て2ユニットで高齢者共同住宅が併設され、入居者と一緒にボランティアの慰問等を楽しんでいます。又、隣接して協力医療機関があり、医療サポートの充実が図られ、安心感に繋がっています。立地的に町内会がなく、隣接町内会の理解を深め、運営推進会議の参加や災害時の協力を得ています。施設長・職員は開設時からの理念「四季のある 自由な生活 快適に やさしい介護 おいしい食事」を介護の基本として常に意識し、利用者の立場になって話し合い、本人本位の介護の実践に努めています。職場環境が整っており、全ての職員が正職員で、更に本年度会社として資格取得に向けた補助制度を導入し、職員のスキルや意識向上に役立っています。施設長は現場のシフトに入りながら利用者に関わり、現場の状況を共有することで職員と良好な関係を築いています。食事の下ごしらえや後片付け等利用者のできることを支援するとともに、高齢化による身体機能の低下が見られる中で、職員は介助の工夫をしたり季節ごとの行事・誕生会の開催・外食にでかける等活動の場を作りながら、利用者が笑顔で楽しく過ごせられるよう取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	サービス担当者会議や合同ミーティングにて、入居者様から「優しい介護、おいしい食事」となっているか、反省や意見を出し援助方法の改善をしている。	開設時からの理念を各ユニットの目のつく所に掲示し、施設長・職員は介護の基本として常に意識の中に置き利用者本位の介護の実践に努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	カラオケの慰問を共同住宅の入居者様と楽しんだり、お花見や焼肉パーティーの計画を通して地域の方々と交流している。	隣接町内会の協力を得て運営推進会議や避難訓練を実施しています。併設の高齢者共同住宅と連携し、ボランティアの慰問と一緒に楽しんだり高校生の職場体験の受け入れも行っていきます。今後地域の相談窓口として貢献することを検討しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生実習を受け入れ認知症の方の理解や支援方法を伝えている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度、ご家族、地域の方、包括支援センターの職員の方々に出席して頂き、施設の取り組みの報告をし、意見はサービス向上に活かしている。	会議は定期的に行われ、状況報告・活動報告・事故報告・避難訓練報告等を行い、意見・アドバイスを得て事業運営に活かしています。議事録は各フロアに置き閲覧できるようになっていますが、更なる情報共有の手段として今後全家族に周知徹底を図っていきます。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課、生活保護課、社会福祉課の担当の方と、ご家族からのご相談や質問に答えられるよう、協力関係を築き相談している。	日常的に市役所担当者職員と連携を図り相談やアドバイスを得ながら協力関係を構築し、サービス向上に活かしています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみ(21時～6時)。身体拘束はしていない。	身体拘束マニュアルを全職員に配布し、共通理解を深めています。又、不適切な言葉使いにも注意を払い、その都度職員間で話し合う機会を持ちながら身体拘束をしないケアを実践しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	サービス担当者会議は月に1回は行っており、個々のケアで虐待は無いか、気になる事を話し合いスタッフ間で注意し合っている。1・2階の合同会議でも定期的に議題に出ている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会や北見市成年後見支援センターなど主催の研修会に参加し、必要あると思われる関係者の方や、ご家族からの質問を受ける時に成年後見制度を説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	消費税の改定時や介護保険制度の改定時など、契約の内容が変わった時や、ご家族に十分説明を行い理解納得して頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来所時や運営推進会議にて、ご家族の意見やご家族を通して入居者様の意見、スタッフに話された意見や要望を聞くことが出来反映させている。	家族の訪問時等で利用者の状況報告や希望・要望を聞く機会としています。又、事業所便りを3ヶ月毎に送付し、利用者の様子を伝えながら常に家族の安心・信頼が得られるよう努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月、1度の業務の話し合いや月1回の1・2階合同会議、個別の面談で意見や提案を聞き運営に反映している。	施設長は月1度の合同会議やフロア会議、日々の会話から職員の意見・提案を把握するよう努め、運営に役立てています。又、会社は職員のスキルや意識向上を目指し取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各種資格など取得時の補助制度が、平成28年4月1日より適用になり、資格試験の費用、研修会参加料・旅費などの補助が受けられるようになった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内を回覧したり、シフトの調整をし参加出来る様にし、カンファレンス、1・2合同会議、回覧などで習得した研修内容を報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や研修会のグループ討議などで同業者との交流をし相互の情報交換をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	スタッフに話をして頂けるように配慮しながら対応している。いつもの会話や行動等でも気づけるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会の際、ご家族が気軽にお話して頂ける雰囲気を感じて接している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談時、話を聞き、必要とすることを見極める事から始めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話の中でご本人の気持ちを聞き出し、それをくみ取り対応していけるようスタッフ同志も話し、みんながよい関係であるよう努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、ご本人の様子を少しでも伝えられるように会話を持つ努力をしている。また協力していただきたい事も相談しながら、ご家族の意見も聞きながら対応している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会も時々あります。また、食事や親せきの集まり等へも外出、外泊されています。	友人の訪問を歓迎したり行きつけの美容院へ出かけたり家族との外食や自宅への外泊等これまでの関係継続の支援に努めています。又、居室で新聞を読んだり趣味の編み物が続けられるよう取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	茶の間では、近くに座る入居者様同志お話ができるよう、気を配りながら会話しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の集まりや、病院の待合室や商店で退所された後、ご本人やご家族と会った時やかかわって下さっているCMや施設関係者と経過を聞いたり、亡くなった後などはお悔やみを伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	夜間、眠れない時などスタッフが普段聞けない心の中をマンツーマンで聞かせて頂いたり、ご家族に話されている事などで意向を把握している。コミュニケーションの取れない入居者様とは感情の把握で意向をくみ取っている。	施設長・職員はセンター方式シートの活用や家族からの情報、利用者からの話を聞く時間を大切な機会として、会話や表情などから希望や思いの把握に努め、利用者本位の介護に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、以前使っていたサービス事業所からの情報の提供を受けたり、ご家族に生活歴や生活環境の基本シートに記入をいただき把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録に記入し、スタッフ間での申し送りやカンファレンス、サービス担当者会議でスタッフ同志、ご家族、訪問看護師などの情報の共有で現状を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時少しの時間でもご家族と話し合い、その都度ご希望やご本人の現状をお伝えしお考えを聞いている。モニタリングはCMのみでなくスタッフも行ってもらうサービス担当者会議で訪問看護師からの指示や、医師からの指示も反映させ作成している。	定期的なモニタリングやカンファレンスを行い、利用者・家族・関係者の意向を反映し現状に即した介護計画を作成しています。介護計画の短期目標を生活記録に記載し、プランの確認とケアの統一ができるよう工夫しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録、訪問看護記録、医師からの連絡表へのお返事など、スタッフ間で情報共有し、月1回のサービス担当者会議、カンファレンスでケアプランの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科、訪問理容、訪問看護ステーションなど、個々のニーズに合わせて支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや学生実習、実務者研修など受け入れ、ご家族やスタッフ以外の方々とのかかわりや協力を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時、情報提供書等持参して頂いたり、訪問看護師さんと病院で相談して頂いたり連携している。緊急に受信する時は同行している。	希望するかかりつけ医の受診は家族対応を基本としています。週1回の訪問看護や医療機関が隣接している為、利用者の健康管理と適切な医療が受けられるよう努めています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度と緊急時に訪問看護師さんと連携、協力して頂き、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、情報提供書を渡し、また電話や医療機関での情報交換している。退院時は、看護依頼書、情報提供書を病院から頂き対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、または終末期に近い状態になった場合、ご家族と面談を密にし、今後の対応を話し合い、ご本人・ご家族の希望を聞き支援している。	契約時に重度化・終末期について利用者、家族に説明し理解を得ています。利用者の状況に応じてどのような形が利用者にとっていいか考え、思いの共有に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応の研修に参加し、サービス担当者会議や合同会議でスタッフに周知している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署主催の研修に参加し、春と秋年2回、避難誘導訓練を入居者様と共に実施している。	年2回消防署立会いのもと夜間を想定して、民生委員や包括支援センターの方の見守り、通報や消火、避難誘導、掛布団等を使用した救助訓練を実施しています。一般的なマニュアルはありますが更なる災害マニュアルを検討しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、尊厳を大切に声掛けをし対応している。	利用者一人ひとりの尊厳を尊重し、羞恥心に配慮した声掛けや対応を心掛けています。個人情報取り扱いも適切に保管されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に、ご本人に希望を聞き確認した後、対応・支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で休みたいと希望のある入居者には、居室へ誘導している。居室で編み物をされている入居者様おり、都度見守りしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、洗面や髪を梳かす支援をしている。ご自分で可能な入居者様は見守りしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	そばやそうめんが食べられない入居者様はうどんに変更するなどし支援している。	栄養士がバランスに配慮し作成した献立を基に利用者が皮むき等調理に参加し、畑で収穫した野菜も食材として活用しています。誕生日に外食に出掛け、行事には出前を取ったり食事が楽しめる様工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量の少ない入居者様には、氷あめ(ジュースを冷凍し固めた物)を作り食べていただき、水分量を補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な入居者様は、義歯の洗浄をスタッフが援助し、後に口腔洗浄している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事の前や居室へ戻る際には、トイレの声掛け・誘導するように心かけている。	利用者の排泄パターンを把握し、声掛け誘導しトイレで排泄できる様取り組んでいます。利用者の状態に応じ、リハパン等を使用し自立に向けトイレでの排泄を大切にしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便がしばらくない入居者様に対しては、きな粉牛乳を提供して下剤にて調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴拒否がある入居者様は、時間や日にちを変更し入浴して頂いている。	利用者の意向を考慮、希望を優先し週2回を基本に一人ひとりの体調や病状に合わせて楽しく入浴できる様支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は、居室へ誘導し休まれている。茶の間ソファにて休まれる入居者様もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬情を保管し確認できている。受診後、連絡ノートと内服薬と受診経過記録に必要事項を記入し周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いを進んでして頂ける方は、無理のないようお願いし達成感を感じて頂いている。居室で編み物をされている方も定期的に巡回し見守っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、花見をしたり外気浴をしている。季節にあわせた行事を提案し、外出・外食支援を行っている。	家族と散歩に行ったり、季節ごとの花見や菊まつり、事業所の行事で家族と一緒に焼肉を食べに出掛けたり利用者の気分転換になっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理されることで安心される方には所持して頂いているが、トラブルを防ぐ意味で、なるべく金銭管理しないよう協力して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により、電話をかけたい時は、スタッフがダイヤルし会話して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音・電化製品の音や廊下の電気など、不快な思いをされることがないように配慮しています。	明るいリビング兼食堂には行事の写真や時期になると桜の枝が送られてきたり、行事ごとに窓にペイントや飾り付けをしています。塗り絵やパズル、定期購読している新聞を読むなど家庭的な雰囲気になっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人の希望によって、居室内にて他入居者様と会話をされている場合は、入居者様の状況を見て一人になりたそうな感じが受け取れれば、他の用事がある事をお伝えし退室して頂いています。茶の間での会話は、自由にされ過ごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎週日曜日に、掃除機などを用いて各居室を清掃し、入居者様が気分の良い状況となっている。	利用者の居室には使い慣れた筆筒や家具、寝具、扇風機、仏壇などが持ち込まれています。居室で編み物をしたり個人個人が安心して居心地良く生活できる様工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	可能である入居者様であれば、居室の掃除を自ら行ってもらうなどの工夫をしている。		